

# 求められる医療を提供し

## 人が集まる病院に

シリーズ  
働き方改革  
医療法人社団喜生会  
新富士病院

きじま かねお  
木島金夫 病院長



1986年獨協医科大学医学部卒業。同大学病院、福島県立大野病院内科外科統合格部長、森町国民健康保険病院内科医長、医療法人社団喜生会新富士病院副院長などを経て、2017年から現職。

一般病床104床、療養病床102床の計206床で、救急・急性期から慢性期の患者を受け入れる「医療法人社団喜生会新富士病院」。木島金夫病院長は、「病院として力を発揮するには、医師を含む職員の健康が欠かせない」と語る。取り組みと思いは。

### 貴院における医師の働き方改革について

2017年に院長になってから、「医師の休養」についてはできる範囲で、できる限りの対応を進めてきました。私自身が長年働く中で、医師が適切に休養を取り、良いコンディションでいることの大切さを感じてきたからです。

まずは、医師のフレックスタイム制を導入し、検診

### 働き方改革の取り組み

- ☑ フレックスタイム制、週1当直を導入
- ☑ バックアップできる医師を複数用意
- ☑ コミュニケーションの円滑化

で早く勤務を開始したら、その分、その日は早く勤務を終えてもらうなど、柔軟に対応できるように変更しました。当直も週1回を基本とし、それより多い回数にならないようにしています。また、当直明けは午後3時までは勤務を終えてもらうよう指示しています。

と、患者さんが困らない状態の両立を図っています。体制面以外で、医師の心身の健康を守るために大切に行っていることのひとつが、「コミュニケーション」です。仕事によって心身共に追い詰められていくことがないように、医師同士が頻繁に会話を交わし、相談したり、時には愚痴を言ったりして、一人で考え込んだり、抱え込んだりしない環境をつくりたい。勤務時間を制限するのも必要ですが、きつい時に話ができる雰囲気を目指すようにしています。

### 地域の医療提供体制を維持するための工夫は

富士市の平日夜間の救急は、市救急医療センターが午後7時から翌朝8時まで、内科・外科・小児科の1次救急を担い、基幹病院の富士市立中央病院が2次救急を一手に引き受けています。慢性期救急、いわゆる高齢者救急の機能を備える当院では、平日が午前8時半

から午後5時、土曜は午前11時半まで救急を受け入れており、受け入れ数は年間200件ほどになります。今後は、平日、救急医療センターが開く午後7時までの時間外救急の受け入れを検討しており、より地域の救急医療も助けになれるよう努力していくつもりです。

### 働き方改革の推進でも重要な人材確保。そのための施策は

地域で必要なことをやり続ける。結局は、それに尽きる気がしています。救急や急性期で受診した患者さんは、治して自宅や施設にお返しする。慢性期の患者さんには最期まで寄り添う。それを続けることで、「そのお手伝いをしよう」という医師らスタッフが集まってくれると思っています。

高い給料も魅力ですが、地域に貢献する評判の良い職場であることも、選ばれる大事な要素です。地元で必要な医療を提供し、その結果、人が集まるというのが、遠回りなようで一番、確実なのではないでしょうか。



医療法人社団喜生会  
新富士病院  
静岡県富士市大淵3898-1  
☎0545-36-2211(代表)  
<https://shin Fuji.or.jp/>  
206床